

松江いなさ



題字揮毫 千家達彦 (元いなさ会会長)

写真提供 板垣 宏 (写真家・高校7期) 表紙写真: 国宝指定以前の松江城天守

第36号

大社高等学校応援団節

副会長 金 築 孝 (高校十九期)



昨年夏、大社高校はすごかった。言うまでもない、甲子園である。全国の耳目を集めたと言ってよからう。島根県大会を制し、甲子園出場を決めたときは、お、久しぶりという感じであったが、一回戦、二回戦と勝ち続けるうちに思わぬ人からメールが届いたりして、身辺が賑やかになってきた。つい応援歌が鼻先から流れ出してしまふ。そして校歌。少し元気が出ないなどとなしたりしていたあの校歌(失礼)、勝つてこれが甲子園に流れるととんでもない感動に襲われた。テレビに流れる校歌と一緒に歌っていると、泣けて泣けてたまらない。

次は三回戦、相手はあの早実。これにも勝った!!
そこに、社高時代に応援団をあれこれやってきた旧友からメールが届いた。いわく、「六十年ぶりに応援団節思い出してみた。心の中で歌いながら応援しよう!」と。歌詞が添えられていた。

「大社高等学校応援団節」、ああ、覚えている。
東に弥山の山を仰ぎ、西に稲佐の浜を望む我が大社高校の若人よ!
いざこれより歌わん大社高等学校応援団節の一節を!

- 一、ここは出雲か大社の町か、大社の町なら学校は社高。
- 二、大社高校の学生さんは度胸一つの男だて。
- 三、度胸一つで稲佐の浜を歩いて行きます、紋付き袴。
- 四、紋付き袴は大社のしるし、ボ口はおいらの旗じるし。
- 五、ボ口は着ても心は錦、どんな事にも恐れはせぬぞ。

と続き、「母校の為なら命までも(捨てる)」で終わる。
四回戦、ちよつと振りをつけて声に出してこの応援団節を歌いながら応援していたらあの頃のことを思い出されてまたまた激しく泣けてきて、何年分かの涙を絞り尽くした。

この試合で、大社高等学校野球部の令和六年の夏は終わった。スカスカした気持ちになった。むなし。高揚感が失せるということはあることかと思つた。
しかし不思議なことに、この応援団節を知っている人あまり会わない。限られた連中の限られた思い出なんだろうか。何十年前のあの頃、わけの分からな

いことをよくしていたからなあ。懐かしさが募る。
さてさて、応援歌に校歌、応援団節、歌って泣いた夏だった。母校を堪能させていただいた。
今年も泣かしてください!!

杵築の ラフカディオ・ハーン



島根大学法文学部 准教授

宮澤 文雄氏

ラフカディオ・ハーンと杵築（大社町）のつながりはアメリカ時代まで遡る。はじめて杵築の存在を知ったのは、フランスの日本研究者レオン・ド・ロニの『日本詞華集』を通して出雲神話のことを学んだときだといわれている。その後ハーンは、ニューヨークで開催された万国産業綿花百年記念博覧会に新聞記者として訪れると、そこで日本の美術品や工芸品に魅了され、まずは日本への関心を深めていく。来日の前年には『古事記』の英訳を読み、再び日本行きの思いを募らせる。そして、みずから日本取材の企画をハーパー社に提案し、ついに来日の夢を実現させる。

日本の土をはじめて踏んだ横浜では、あらためて英訳『古事記』を購入し、丁寧に読み込んでいる。その様子から杵築への取材旅行を念頭に置いていたことが窺える。しかしここで想定外の出来事が起こる。来日から二カ月後、ハーパー社に絶縁状を送って特派員の職を辞してしまうのだ。だが

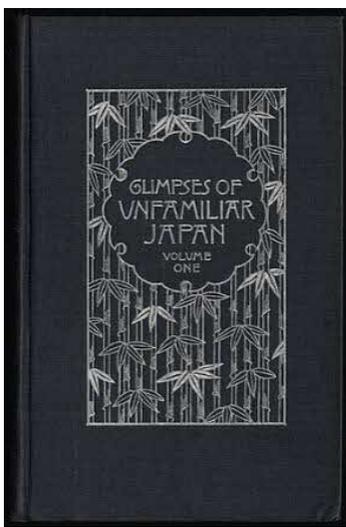
結果的に、これが松江の英語教師のポストを呼び込むことにつながり、まるで出雲の神々に導かれるように、来日から半年も経たないうちに憧れの地に赴くことになる。

ハーンの杵築訪問は、記録に残っているだけでも三度ある。一度目は、明治二十三年九月十三〜十五日。期間は短いものの、松江に赴任してわずか二週間後のことを考えれば、ハーンがいかに熱望していたかわかる。このときハーンは、外国人としてはじめて正式な昇殿参拝が許され、第八十一代国造千家尊紀宮司と対面を果たす。千家宮司の放つ威厳を目の当たりにしたハーンは、彼が神々の末裔と信じられていることを得心する。千家の警咳に接するだけでなく、発火の神器である燧臼や燧杵などの宝物、巫女舞などを参観する機会にも与る。破格の待遇を受けたのは、島根県尋常中学校の同僚で友人の西田千太郎のおかげだった。西田は、千家とかつて内村鱸香の私塾「相長舎」で学びあつた学友であり、ハーンのために紹介状を書いてくれたのだ。以後、ハーンと千家のあいだにも親しい交際が始まる。ちなみに、ハーンの妻となる小泉セツは、本居宣長のもとで学んだ国学者で、第七十六代国造を兄にもつ千家俊信の玄孫にあたる。

のちにこの訪問は来日第一作『知られぬ日本の面影』の第八章「杵築―日本最古の神社」としてまとめられ、ハーンの神道理

解を知るうえで重要な作品となる。その後二回の訪問についてもそれぞれ「杵築雜記」(『知られぬ日本の面影』所収)と「出雲再訪」(単行本未収録)に記されるけれど、「杵築」ほどの評価は与えられていない。だが、意味は文脈によつて決まる。外国人によるはじめての昇殿という文脈が「杵築」を意義深い作品にしたように、その時点のハーンの境遇を背景に再読することで、ほかの訪問記もそれなりに意味ある作品に変わっていくはずだ。

二度目の訪問は、翌年の七月二十六日〜八月十日で、夏季休暇を利用して二週間ほどいなばや旅館の別館「養神館」に逗留する。西田が同伴し、あとから住込み女中として雇っていたセツが合流した。ここで、当時、宿の女中をしていた宇家タニの回想を紹介したい。セツを乗せた人力車が稲佐の浜に到着したとき、西田は若い女中(タニ)に「見ちよれよ、ヘルンさんがどげするか」と言つて物陰から様子を見守らせる。



『知られぬ日本の面影』※

すると、セツの姿に気づいたハーンは、玄関を走って車のもとへ行き、セツに優しいことばをかけ、車からセツを抱いて降ろしたという（梶谷泰之『へるん先生生活記』）。まだ十代の娘だったタニの瞳には、西洋人男性の女性に対する振舞いはとても新鮮に映ったことだろう。西洋人に驚異のまなざしを注ぐ日本人少女、そのタニの驚いた表情と仲睦まじいハーンとセツの姿を交互に眺め、ハーンを中心に起こる出来事のすべてを包容する西田のまなざしは、松江時代のハーンの間人関係を象徴している。あるいは、タニを最も驚かせたのは、西洋文化を自然体で（実際は徐々に）受け入れていたセツの振舞いのほうだったのかもしれない。

この間、ハーン一行は日御碕神社にも訪れている（『知られぬ日本の面影』所収の「日御碕にて」に詳しい）。実は、日御碕神社の小野尊光宮司の夫人とセツは従姉妹同士だった。セツが合流した背景には、ハーンに日御碕神社を紹介するだけでなく、親戚への挨拶も兼ねていたと思われる。また、このとき昼食の饗応を受け、ハーンがはじめて見る水雲をほうれん草と勘違いする一幕もあった。さらに杵築から帰宅して四日後、ハーンとセツは伯耆旅行に出かけている。こうしたタニの回想、親戚の訪問、そして二人だけの旅行などを勘案すると、当時、ハーンとセツは新婚だったことがわか

ってくる。二回目の杵築訪問を記した「杵築雑記」と「日御碕にて」は、ハーンとセツの結婚という文脈から読んでみると面白い。

入籍のほうはもう少しあとの話になる。ハーンの帰化手続きが完了するのは、神戸時代の明治二十九年二月十日のこと。帰化と同時に小泉家に入籍し、「小泉八雲」と改名する。三度目の杵築訪問は、同じ年の八月十一〜十八日で、今度は長男一雄も一緒だった。このときの訪問を一部記した「出雲再訪」をハーンは単行本に収録しなかった。杵築という場所との関係が変化したことが原因の一つだと思われる。「杵築を見ることは今日なおお生きている神道の中心を見ることである」（「杵築」と言わしめた最初の取材中心の訪問とは違い、二度目の訪問は、親しくなった千家と会ったり、大好きな水泳を楽しんだりする避暑のためであり、三度目の訪問もまた、松江に里帰りして、帰化と入籍の報告が目的だった。はじめは研究対象だった杵築が、いつの間にか家族や友人との思い出の地という認識に傾いていく。

また別の角度から言えば、この時期のハーンは、自身の抛り所を失いかげ、西洋と東洋のあいだを振り子のように行きつ戻りつする不安定な状態にあった。三度目の杵築訪問を記す「出雲再訪」のなかで「一度愛し捨て去った土地を再び訪ねて無傷でい

ることはできない」と吐露するように、夢のような出雲の日々から離れて、熊本、神戸を経て現実の日本と日本人を知って以来、かつてのように愛せないでいる自分に苦しむようになる。本作執筆時点のハーンは、みずからに課した日本という問いをまだ乗り越えられていない。そうした文脈を理解すると、「出雲再訪」にはハーンの心の揺れや不安が赤裸々に映し出されているといえるだろう。

要するに、杵築訪問は、ハーンの神道観や創作に影響を与えただけでなく、ハーンという人間の成長にもかかわっていたのだ。そもそも出雲神話や杵築との出会いがなければ「小泉八雲」の誕生はあり得なかった、というのは言い過ぎではないだろう。なぜなら、杵築という土地はハーンに、いっぽうでは神道と神話が今日も生きていることを教え、もういっぽうでは神話に因んだ名と人生の喜びを与えたのだから。



熊本時代のハーンとセツ

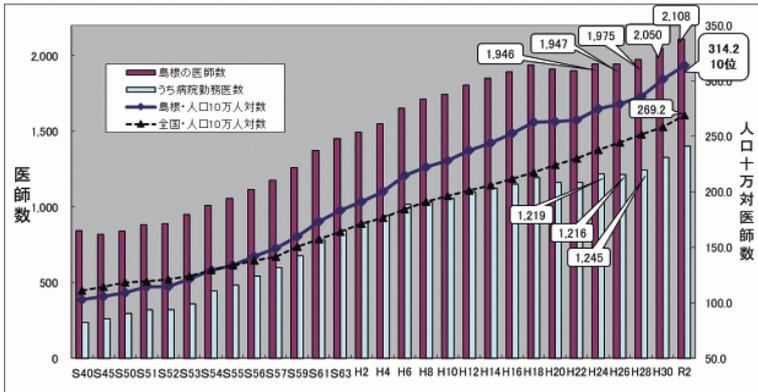
「島根県の医師確保に携わって二十年」



島根県健康福祉部 地域医療対策監
木村 清志氏 (高校二十七年)

令和六年度の記念講演を引き受けて頂いた木村清志先生は、一九八一年に自治医科大学四期生として卒業され、

島根県立中央病院から始まり、
隠岐病院、島根県成人病予防センターで勤務後、掛合診療所、隠岐島前診療所長、県立中央病院総合診療科部長などを経て、へき地医療支援に携わってこられました。国の第九次へき地保健医療計画（平成十三年）によって、へき地医療対策の各種事業を円滑かつ効率的に実施するため、島根県では平成十四年に県立中央病院に設けられ、平成十五年からへき地医療での診療経験を有する医師として専任担当者となられました。先生はその医師人生の多くを県の職員という立場で活躍し、二十



年の長きにわたって医師確保に取り組んでこれられ、まさに地域医療対策一筋に尽力。令和四年に島根県健康福祉部医療対策課の地域医療対策監となられました。

先生を中心とした島根県の医師不足解消の施策は「呼ぶ、育てる、助ける」を掲げたもので「赤ひげバンク」をはじめ、島根大学医学部の地域推薦枠入学や女性医師就業支援など多角的な取り組みとして全国の関係者の注目を集めています。先生のお話を聞く前までは、島根県では隠岐に産婦人科医が居なくなり島内での出産が出来なくなっている現実や、益田市など県西部でも医師不足のために病

気にもなれないという、島根県全域での医師不足に対する漠然とした不安感がありました。しかしこのグラフを見せて頂いて驚きました。人口十万人当たりの医師数としては三百十四人の島根県が全国で十位という高いランクなのです。素晴らしいですね。

先生の地域医療にかける情熱の原点はどこにあったのでしょうか。お話の後半は全国の都道府県が共同して昭和四十七年に設立した自治医科大学での学生生活に移ります。そこでは六年間の学生生活は「絆」が生まれる全寮制だったそうです。最初の一年間は、隣り合う八人から十人で「一年生ラウンジ」を構成、上級生の支援を受けながら、地域医療を志す仲間との絆を深めます。なるほど、ここでの全国の仲間との学びが貴重な体験だったようですね。

島根県においても小学生や中学生を対象とした「ふるさと教育」などを活用して児童・生徒が地域医療の理解を深め、ひいては地元の医療従事者を目指すきっかけづくりを進めたり、中学生、高校生には医療現場の職場体験などを積極的に進めているとのこと。先生をリーダーとする島根の医師確保対策室の皆さんを心から応援したいと思う講演会でした。

(文責 今岡)



松江で活躍する 大社高校OG訪問記

画家 前島^{まえじま}由紀子^{ゆきこ}氏（高校十一期）



松江いなさ会の
会員さんで、なん
と大変な女流画家
がおられえげな！
という話を聞き、
松江市西持田の住
宅街にあるご自宅

を訪ねてきました。白壁に黒いストラ
イプの立派なご自宅のドアを開けると
笑顔の柔らかな前島さんが迎えて
くださいました。玄関横の洋室は
油絵の香りに満ちたアトリエに
なっていて、そこには毎年、上野
にある東京都美術館で開催される
女流画家協会展に出品する百三十
号（1940×1620mm）という大き
なサイズの作品が何枚も立てかけ
られていて、今年の作品もまさに
制作の最中でした。こんなに大き
な作品を描くには脚立か踏み台が
ないととても筆も届かないと思っ
ましたら、「少し前まではフィット



ネスクラブに通って鍛えてましたけど、
この年になって足腰も弱くなったのか
椅子から転げましてねえ」と笑われま
す。いやはや、すごいパワーに驚かさ
れました。ヒマワリが印象的なこの油
絵は美術誌「花美術館」八十七号に掲
載されて、ウクライナの平和への思い
と人間の力の弱さが表現され高い評価
を受けられた作品です。

ご経歴を伺うと大社高校を卒業後、
短大を経て島根県内の養護学校の先生
になられたとのこと。油絵は高校を出
てから学ばれたそうで、仕事をしなが
ら四年間の通信教育で武蔵野美術大学
を卒業されました。長年、浜田養護学
校や松江ろう学校などの教員として美
術を教え、現在も

障がいを持つ方々
の作品制作の指導
を続けておられま
す。
「私は大社の四本
松にあった前島味
噌屋の出でして、
いまは商売を止め
ましたけど正月に
は毎年実家で過ご
しています。大社町
を描いた作品があ

まり無いです
けど、これは
多伎のあたり
から稲佐の浜
を描いた絵で
す」と見せて
頂きました。



山陰の雲の
色、深い海の
青色と波の白
さが美しい見
事な故郷の風景でした。
今までに制作された大きささまざまな
作品が、隣のお部屋にもその隣にも沢
山置かれていてこれをどうしようかと
思案中との事です。個展を開いて販売
するのはあまり気が進まないようでし
たけど、どこかに飾ってあげたい作品
ばかりでした。

「絵の中に風を表現したい」とおっ
しゃる前島さん、これからますます
お元気で作品を発表し続けてください。
東京上野の美術館まではなかなか足を
運べないですけど、島根洋画会の展示
会が県立美術館で行われるときに、新
しい作品の中に「風」を見つけ出しに
訪れたいと思います。

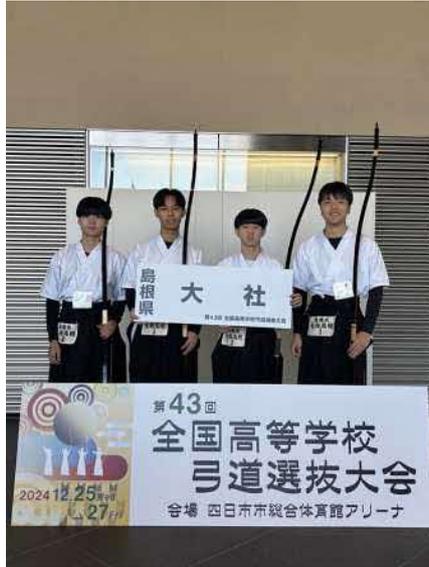
（文責 今岡）

母校だより

弓道部男子 全国選抜へ初出場、ベスト十六

弓道部は、平成八年三月に部活動として承認され、平成二十四年に女子が団体で全国選抜に出場し準優勝を果たした。

今年度男子が個人戦と団体戦で第四十三回全国高等学校弓道選抜大会（2024年12月。於：三重県四日市市）に出場した。団体での全国大会出場は創部以来二回目、男子としては初出場である。この大会で、団体では決勝トーナメントに進出しベスト十六に残る活躍を見せた。この経験を生かし、次は団体でのインターハイ出場をめざしたい。



ダンス部 甲子園で踊る

新しい衣装で迎えた初戦、緊張さえも楽しんで踊りました。トサウスポーでは野球部員が踊って

いる姿を見て「同じ振り付けで踊ろう」とその場で振り付けを変更しました。あの広い甲子園球場でたくさんの方々と心を一つにして応援することができた経験は一生の思い出になりました。現在、全国大会出場を目標に練習に励んでいます。甲子園での経験を活かし、夢を現実できるように頑張ります。



1. 進学状況（合格延べ数・過年度卒業生を含む）

		令和4年度	5年度	6年度
大学	国公立	68	71	72
	私立	228	200	271
短大	公立	18	6	14
	私立	6	10	9
高専		14	18	13
合計		334	305	379

2. 就職状況

		令和4年度	5年度	6年度
公務員		14	5	5
民間事業所		8	3	4
合計		22	8	9

吉川めぐみ校長先生の紹介



大社高校の第四十五代目の校長は吉川めぐみ先生で、歴代初の女性校長です。就任初年度で、なんと三十二年ぶりに出場を果たした夏の甲子園で大社高校野球部はベスト8という栄冠に輝きました。まるで幸運の女神さまのようですね。大社高校らしい、あきらめない選手たちのフェアプレーは神々の国からやってきた少年たちと称され、全国にその名をとどろかせました。吉川先生ご本人も剣道に青春を燃やしたスポーツウーマンだそうです。野球部だけでなく文武両道で大社高校を引っ張って行ってくださると期待しています。

表紙に寄せて

板垣 宏（高校七期）

今年は松江城が再び国宝となつて十周年を迎えるのだそう。少し前の松江城の写真を何枚か探してみたが、観光パンフレットでよく見るようなものでもつまらない。これを選んでみたがいかがだろう。そうそう、クイズにしていた前月号、稲佐の浜の写真は昭和四十年の夏のものである。ビニール製のパラソルや浮き輪が一気に普及した頃だった。

会 務 報 告
事務局長 糸賀耕一(高校十九期)

第三十五回総会には去年より多くの参加者が集まって下さいました。有難いことでした。北島最高顧問様の音頭で、応援歌を9曲を歌いあげて氣勢を上げました。甲子園でのあの大・大・大活躍の後押しになったかも！
今後とも松江いなさ会の輪を大きくしていきたいものです。どうか末長いお付き合いを宜しくお願いいたします。

令和六年度の事業

▼令和六年四月二十七日
会計監査

前年度の事業報告・決算報告、
本年度の事業計画・予算案 承認。

▼令和六年四月三十日
総会案内のお知らせ、会費納入お願い、会報三十五号を発送。

▼令和六年六月二十二日 第三十五回総会
於 サンラポーむらくも
参加者 二十八名(来賓五名、会員二十三名)

▼令和六年十二月七日 第二回役員会
本年度会計中間報告・本年度事業中間報告。
来年度総会・懇親会について協議。

同日 会報三十六号編集委員会
▼令和七年三月八日 第三回役員会
会計中間報告・事業報告。令和七年度総会について。

来年度の事業計画・予算案 承認。
同日 会報三十六号編集委員会

令和6年度松江いなさ会決算書

収入総額 517,963 円
支出総額 310,431 円
差引金額 207,532 円

1. 収入の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	摘要
会費	200,000	186,000	▲14,000	@2,000×93名
寄付金	55,000	68,000	13,000	いなさ会、県いなさ会、北島最高顧問、穴道地氏
雑収入	60	23	▲37	普通預金利息
繰越金	263,940	263,940	0	
合計	519,000	517,963	▲1,037	

2. 支出の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	摘要
会議費	30,000	13,332	▲16,668	役員会、役員会会場費等
事務費	40,000	33,012	▲6,988	総会出欠葉書代524枚
事業費	350,000	251,407	▲98,593	会報発行費、取材費、会費納入願い郵券等
慶弔費	20,000	0	▲20,000	
雑費	30,000	12,680	▲17,320	振込手数料等
予備費	49,000	0	▲49,000	
合計	519,000	310,431	▲208,569	

基金積立金現在額 200,000円

令和7年度松江いなさ会予算(案)

1. 収入の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減	摘要
会費	200,000	200,000	0	@2,000×100名
寄付金	55,000	55,000	0	
雑収入	60	68	8	預金利息等
繰越金	263,940	207,532	▲56,408	
合計	519,000	462,600	▲56,400	

2. 支出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減	摘要
会議費	30,000	20,000	▲10,000	幹事会、役員会、事務局費等
事務費	40,000	50,000	10,000	総会出欠はがき代等
事業費	350,000	350,000	0	総会、会報発行費等
慶弔費	20,000	10,000	▲10,000	
雑費	30,000	20,000	▲10,000	振込手数料等
予備費	49,000	12,600	▲36,400	
合計	519,000	462,600	▲56,400	

基金積立金現在額 200,000円

今年度の総会 御案内

日時 六月二十一日(土)

総会 午後一時から。

記念講演 午後二時から。

懇親会 午後三時から。

懇親会会費 六千円。

会場 サンラポーむらくも(松江市殿町)

記念講演 講師と演題

元・島根県立中央病院泌尿器科部長

川上 一雄氏(高校二十三期)

「健康あれこれ」

講師紹介

昭和二十八年三月 大社町生まれ。

昭和五十四年三月 広島大学医学部卒業。

昭和五十四年四月

島根医科大学泌尿器科学教室文部教官助手

昭和五十九年四月

国立大田病院皮膚泌尿器科医長

平成十一年一月 県立中央病院泌尿器科医長

平成十七年四月 同 部長

平成三十年三月 同 退職

講師からのコメント

あれこれといっても、専門は泌尿器科ですの
で、泌尿器疾患が中心ですが、四十五年の医師
人生の中で色々な検査なり、治療法なりがいか
に進歩してきたかをお話しします。時間が許せ

ば、最近のトピックス『新しい治療法(新規治
療薬、化学療法【抗がん剤】、遺伝子治療)』
もご紹介したいと思います。

前半は「尿路感染症からがん治療まで」と題
して、県立中央病院の雑誌(宣伝広告に類似し
たもの)に投稿した内容および新聞に掲載され
た記事より ①尿路感染症(膀胱炎、腎盂腎炎)
②尿路結石(腎結石、尿管結石、膀胱結石)
③泌尿器癌(腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌)の
三種の病気について説明します。

男性の病気である前立腺肥大症、前立腺癌の
診断・検査・治療について、患者さんに説明す
る冊子(ふだん、患者さんに説明するときに使
用しているもので、インフォームド・コンセン
トのための図説シリーズより抜粋されたもの)
を使って説明します。

後半はインフォームド・コンセント【説明と
同意】とは? 昔の医療は、医師が患者に治療
法を選択してもらってから治療することは少な
かったように思います。患者側も「先生にお任
せします」といった風潮であったと思います。
インフォームド・コンセントについて少し掘り
下げて、詳しく説明します。

皆様へお願い

松江いなさ会は、皆様からお納めいただく
会費で運営しており、御協力いただいております
ますことに、厚く御礼申し上げます。

**年会費は二〇〇〇円、納入期限は、十二月
末日でございます。** 昨今、諸経費の高騰もあり、
会計事情は極めて厳しくなっています。
何卒、会費納入を宜しくお願い致します。

編集後記

それにしても大社高校の甲子園ベスト8は母
校だけでなく全国の視聴者に感動を与えました
ね。今回号ではその話題は他の会報誌に譲り、
朝ドラ「ばけげん」にスポットを当ててみまし
た。松江の令和七年は甲子園に負けない位ホッ
トな年になりそうです。

今岡克己(高校二十四期)

